

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8345
担当部課名	保健所	地域保健	課	母子保健企画
事務事業名	母子保健事業(思春期保健事業)		事業コード	12220

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	市民健康づくりの推進	12
施策名	第2施策	保健サービスの充実	年度

2 実施根拠及び関連法令等

母子保健法第10条、相模原市母子保健事業実施要綱第2条第7号及び第9条

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
思春期に関する正しい知識の普及・啓発を図ることを目的とする。 ・思春期の子どもたちが赤ちゃんと保護者にふれあうことにより、赤ちゃんの特徴や育児の予備知識を与え、育児のイメージを広げることができる。 ・保護者から子どもを大切に育てる気持ちを聞き、生命の大切さを再確認し、自己肯定感を育てるきっかけとする。		思春期の男女、その保護者、関係者	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
・思春期保健セミナー(講師謝礼:60千円) 「児童期・思春期の精神保健活動」 講師 山梨県立精神保健福祉センター所長 近藤直司 参加者 100人 「親から子ども達へ贈るメッセージ“人間と性”」 講師 教育文化センター所長 田中 良 参加者 53人 ・思春期保健担当者連絡会 年2回 講師謝礼:50千円 ・赤ちゃんとふれあい体験教室 参加者数 26人		なし	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	
		計画年次	年度~ 年度

4 評価指標

指標名			
指標式			
指標設定の意図			

5 目標と実績

[金額単位:千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標			a	b	
指標			c	d	
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	110	110	110	110
	人員・時間数	200H	200H	200H	200H
	人件費	836	836	836	836
	その他経費				
	合計	0	946	946	946
特定財源					

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか		
評価 A ▼	A : 達成している (100%)	= 、 、 の平均値 =
	B : 一部達成していない(100%> 80%)	
	C : 達成していない (80%>)	

$\frac{a}{b} \times 100 =$	$\frac{c}{d} \times 100 =$	$\frac{e}{f} \times 100 =$
----------------------------	----------------------------	----------------------------

理由： 制度内の数値をもって目標とすべき類のものではない。

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か		
評価 A ▼	A : 適応している	理由： 少子化による核家族化の中で、命の大切さ、自己肯定感の育成など、思春期の子どもに対する一層の保健対策の充実が求められている。
	B : 一部適応していない	
	C : 適応していない	

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か		
評価 A ▼	A : 妥当である	理由： 赤ちゃんふれあい体験教室において、赤ちゃんとその保護者にはボランティアで来てもらっているなど、少ない費用で多くの効果をあげている。
	B : 一部妥当でない	
	C : 妥当でない	

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か		
評価 B ▼	A : 代替の可能性ない	理由： 思春期保健という新たな保健分野であり、これに関わる市民団体、NPOは、全国でもほとんどない。当面は思春期保健に対する意識啓発を重点にし、地域での活動の醸成を行うことが課題である。
	B : 代替の可能性低い	
	C : 代替の可能性高い	

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか		
評価 A ▼	A : 満足できる	理由： セミナーや体験教室に参加している市民からは満足感を得られている。
	B : 一部満足できない	
	C : 満足できない	

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か		
評価 A ▼	A : 有効である	理由： 現在策定している母子保健計画の中で、思春期保健対策は母子保健事業のなかで重要な課題となっている。
	B : 一部有効である	
	C : 有効でない	

<p>評価バランスチャート</p>	<p>成果向上の余地</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ある</p> <p><input type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： 思春期保健事業についてはまだまだ周知度が低く、セミナーや体験教室の参加者が少ない状態である。今後、広報活動の充実、関係機関との連携の強化を図る必要がある。</p>
	<p>コスト改善余地</p> <p><input type="checkbox"/> ある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ない</p> <p>説明： セミナー、担当者連絡会においては、思春期に係る専門の講師等が必要であり、謝礼をこれ以上圧縮することは困難である。</p>

7 総合評価

評価	AA ▼	他自治体の類似事業との比較	県内保健福祉事務所を始めとして他市町村でも、同様のセミナー、体験教室が行われている。
今後の進め方		説明	思春期保健対策は、各種対策が十分な連携のもとに推進される必要があり、取組の方向性を明確にし、地域における保健、医療、福祉、教育等の連携の促進が必要となっている。現在策定中の母子保健計画の中でも主要な課題として、一層充実した施策を図っていくことが必要である。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--